

オール.フィジカル

まろかに

『モノ』を発動した事により、全ては始まった。『悲劇』『驚愕』『憤怒』『歓喜』『興奮』。【ホップ】【スピード】【キック】。へバードへモールへ。

そして

『ある少女』も。

目次

1 話	スタート・ラン
2 話	全滅フェスティバル

1話・スタート・ラン

カチャ：

『モノ』が『ソレ』を持っている

カチィ！

『モノ』が『ソレ』を発動した

『ソコ』から『ストーリー』は始まった

簡単に単純なことで『ソレ』は始まった

簡単に単純なことで『ソレ』は始まってしまった

――

――

1

ザッ：ザッ：

『あゝあ：まゝたかあ：』

イメリルア（18歳・『元』速読者）『やっぱり『速読』1本で生きていくのは、き

つすぎるかなあ：』ギィ …ギィ …：

独り言を呟きながら。白色と青色の服を揺らしながら。18歳、『元』速読者の『イメリルア』は嘆いていた。そう、『クビ』になったのだ。

イメリルア『んゝ：マナーどうしよ…』ギィ …ギィ …：

1—1

1—

1

ガチャ：ガチャリ！

イメリルア『たーだいまあ』ギィ …：

少し古そうな家の少し古そうなドアを『イメリルア』は開けた

『おかえり—』

アペレンス（16歳・『イメルルア』の『妹』）『ご飯、出来てるよ』

机の上の皿からは湯気がたっていた。そして、その机の椅子には『アペレンス』。

『イメルルア』の『妹』が座っていた。

イメルルア『おーうまそー』『タ』『タ』…

アペレンス『お姉ちゃん…なんか、声が暗い』

イメルルア『あー、分かっちゃった…？実はさあ、『クビ』にされてさあ』。

ン

カバンを投げながら『イメルルア』は嘆いた。

アペレンス『うそーん…』

イメルルア『あんの、クソ上司…絶対に許さねえ…』『アッギ』 !!

アペレンス『えっ、退職金は？』

イメルルア『今回は出なくてさあ…いただきます…』ン。 :

アペレンス『うそーん…』

イメルルア『ちょっと…後で、ハロワ（ハローワーク）行ってくる…』『ギョギョ

グ…ギョギョ…

アペレンス『あ、じゃあさあ：ついでに醬油買ってきて』

イメリルア『りょーかー』^{ゼグゼグ}　　：^{ゼグゼグ}　　：

――

――

――

イメリルア『いつてきまーす』^{ガチャ}　　：

アペレンス『いつてらっしゃーい』

ボタン：

イメリルア『あゝあ：普通に仕事就こうかなあ』^{キィ}　　：^{キィ}　　：

『イメリルア』が、しつこいくらい嘆いている時だった。

バサア！

羽の音がした。

普段の生活でも羽の音が聞こえる時はあるだろう。が、『イメリルア』の聞こえた羽の音は、普段の生活では聞けないぐらい『大きかった』のだ。

イメリルア『：え？』^{ニギ}　　：

イメルルア『ウツツソダルオ!?』ブブブブブブブブブブブ

!!!!!!!!!!!!

その時だった

ダアンッ！ダアンッ！ダアンッ！ダアンッ！ダアンッ！

巨大カラス『ギヤアアアアアガアアアアア！』ブブブ !! ブブブ !!

ブブブ !! ブブブ !! ブブブ !!

『弾丸』が発射され、『弾丸』が当たったのだ。

ドスウウウウウウウーッッッッッッッッッッッッッッッ

イメルルア『..へええ..?』ブブブブブブブブブブブ

!!!!!!!!!!!!

『おい！大丈夫か！』ブブ !! ブブ !!

『銃』を持った1人の男が走ってきた。

アルリア（25歳・『変異生物対処部隊』『Deal』）『俺は『アルリア』、よく分らないと思うが..アイツらの対処部隊の1人だ』

イメルルア『..はあ..?』

『イメルルア』は唾然としていた。当たり前前の反応だろう。

アルリア『とりあえず、ここから逃げろ。アイツが『進化』する前に』

イメリルア『進化』あ：？』

『イメリルア』は呆然としていた、当たり前前の反応だろう。

アルリア『いいから！早く！』

『77777ウ：オ3333311：』

どこかからか、『変な言葉』が聞こえてきた。

アルリア『ッ：！』カッ！！

イメリルア『え：？』ぎ：

言ったのは『さっきのヤツ』だった。

『0433：タチ：ハ：オソイ：』ンゼンヤ：！！ンゼンヤ：！！

明らか『サイズ』は違うのだが、『死んだ場所』がそこなので、『ソイツ』以外にいないとしか考えられないのである。

アルリア『早く逃げろ！奴がどんな、力を持っているか分からない内に！』ゼ

ヤ！！

イメリルア『え：？え：？』

『ステニ：コウゲキ：』

アルリア『ほら、もう既に攻撃してるって言ってるんだからさあ！』*ぎぎ*!!

『シヨウトシタケド：キャント：ダッタ：』

イメリルア『：は？』*ギョッ*：

アルリア『へ：？』

イメリルア『：もしかして：騙し？』

『タブン：ソレ：』

アルリア『：だ、騙すなあ！』

イメリルア『：もしかして、騙されやすい人？』

アルリア『んな、訳ねえだろ！高校生まで『サンタさんって、本当にいる』って事を信じてたなんて口が朽ち果てても言わねえからな！』

イメリルア『：言っちゃってるし、地味にギャクだし』

アルリア『あ、ヤベ：』

『トリアエズ：サツス：』

『巨大カラス』だった『モノ』は、背中から翼を生やした。

バサアアアア！

アルリア『じゃなくて!』ガッ
!!

イメルルア『ちょお!?』グッ
!!

『アルリア』は『イメルルア』を掴み、全速力で走った。

『ニガスワケ：デハナイ：』ハッ
!!!

『モノ』は、追いかけた。

――

――

――

『ハア：！ハア：！』

イメルルア『腕痛っ：足痛っ：』ギッ：ギッ：

アルリア『もう少し、鍛えとけ：いくら、一般人でも：』

イメルルア『結構：ハア：！横暴すぎません：？』ギッ：ギッ：

アルリア『：』

イメルルア『というか：ふうう：さっきの、ヤツなんなんですか：？全然危険に

見えませんけど：』

アルリア『それが悪質なんだよ：『全然危険そうに見えない』：それが悪質なんだ』

イメルリア『え：？』

アルリア『アイツらは『人間の警戒心』を解こうとしてくる。着ぐるみの様に可愛く見せてな』

アルリア『そのせいで『警戒心』がなくなり、人間は『殺される』：っていう訳だ』

イメルリア『：『巨大』の時でもって事ですか？』

アルリア『ああ：俺が撃たなかったら、お前は上手く丸められて殺されていただろうな』

イメルリア『：というか『巨大』なヤツと、さっきのヤツって同一なんですか？』
アルリア『：奴等の名前は『セパレイタ』。何故かは分からないが『進化』出来るんだ』

イメルリア『は、はあ：つまり出来ると：』

『ミツケタア』

優しそうな声が聞こえた。

イメルルア&アルリア『：！』『カッ』 !!

バード・セパレイタ『ナアンデ、ニゲタノサア』

アルリア『逃げたんじゃない』ㄴㄴ：

ビビ：カチャッ：

アルリア『態勢を立て直ただけだ』ㄴㄴㄴ：

『アルリア』は、なにもない空間から『機械』の様な『モノ』を取り出した。そう、

唐突に。

そして、ソレを腰に触れた瞬間

ビビ：カシユウウ：カチャンッ！

自動で巻かれた。

バード・セパレイタ『ナンだ：ソレ』

イメルルア『機械：？』

アルリア『詳しい事は後で説明してやるよ：それまで、色々な事は『自己責任』

で任せたぞ』ㄴㄴ：

ビビ：パシュンッ！

カチャッ：！

そうして『アルリア』は、なにもない空間から『釘の様な真っ直ぐな棒』を取り出した。そう、唐突に。そう、『再び』

そうして：その天面を『押し込んだ』

ググ：カチィ！

【ホップ】

アルリア『『装強』ギィンギィンギィン

…ギィンギィン

ギィン
：

そうして：それを『機械』に『はめ込んだ』

カチャンッ！

【Begin】

【ハイ ホップ】

ボシュンッ！ボシュンッ！ボシュンッ！ボシュンッ！ボシュンッ！ググググッ

！

ブ
ワ
ア
ア
ア
ア
:

だ
フ
フ
..

イメリルア『足になんか』

バード・セパレイタ『ハマツタ』

『アルリア』の足には『鎧』の様な『モノ』が、はまっていた。

アルリア（チューンホップ）『とりあえず：よっつ：！』グググググググ

!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!

ていた。

アルリア（チューンホップ）『と！』ズッ！！

と、『アルリア』が地面から離れた瞬間。

ギョオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
ンツツツツツツツツツツ

常人の人間では不可能なくらい、飛んだのだ。『セパレイタ』という『モノ』の

翼よりも高く。

そういうと『アルリア』は『釘の様な真っ直ぐな棒』を、2回回した。

【First Second】

そうして：それを更に押し込んだ。

カチイ！

Attack

グワアアアアアアアアアアアアアアアオオオオオオオオオ
そうしている内に、下から『標的』が現れた。

「バード・セプレイタ『ン!?』」
ハ、サァァァァァァ

!!!!ハ”サアアアアア

• • • • •

そうしている内に、上から『殺人シャ』が現れた。

アルリア（チューンホップ）『おらよっ！』

●●●●

グ
ツ
ツ
ツ
ツ
シ
ヤ
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ー
ー
！
！
！
！
！
！
！
！
！
！

バード・セプレイタ『ゲハア：!?』

地上でやれば非力だが、上空から：しかも『加速』がついている攻撃をすれば、

[illegible][illegible]

イメリルア『：わー』
ブフフフフフフフ

䷀ ䷁ ䷂ ䷃ ䷄ ䷅ ䷆ ䷇ ䷈ ䷉ ䷊ ䷋ ䷌ ䷍ ䷎ ䷏ ䷐ ䷑ ䷒ ䷓ ䷔ ䷕ ䷖ ䷗ ䷘ ䷙ ䷚ ䷛ ䷜ ䷝ ䷞ ䷟ ䷠ ䷡ ䷢ ䷣ ䷤ ䷥ ䷦ ䷧ ䷨ ䷩ ䷪ ䷫ ䷬ ䷭ ䷮ ䷯ ䷰ ䷱ ䷲ ䷳ ䷴ ䷵ ䷶ ䷷ ䷸ ䷹ ䷺ ䷻ ䷼ ䷽ ䷾ ䷿ ䷀ ䷁ ䷂ ䷃ ䷄ ䷅ ䷆ ䷇ ䷈ ䷉ ䷊ ䷋ ䷌ ䷍ ䷎ ䷏ ䷐ ䷑ ䷒ ䷓ ䷔ ䷕ ䷖ ䷗ ䷘ ䷙ ䷚ ䷛ ䷜ ䷝ ䷞ ䷟ ䷠ ䷡ ䷢ ䷣ ䷤ ䷥ ䷦ ䷧ ䷨ ䷩ ䷪ ䷫ ䷬ ䷭ ䷮ ䷯ ䷰ ䷱ ䷲ ䷳ ䷴ ䷵ ䷶ ䷷ ䷸ ䷹ ䷺ ䷻ ䷼ ䷽ ䷾ ䷿

イメリルア『すげえ、CGかなあ。やべえい。はええい。つええい。すげえい。』

『ものすげ〜い』

『イメリルア』が現実逃避していると、上空から『アルリア』が降りてきた。

アルリア(チューンホップ)『よっ』
 ..
 ..
 ..
 ..

スッ
..

無事に着地した『アルリア』は、『機械』から『棒』を取り出した。

カチャーン：

アルリア『おい、無事か？』

イメリルア『え、あ、ああ：はい：（すげえ）：抜いたら消えた：』

アルリア『とりあえず：そうだな：お前の家は、ここから近いか？』

イメリルア『えっ、あっ：はい：』

アルリア『なら、今すぐ帰れ：近くに『セパレイタ』が残っているかもしれない』

からな』

イメリルア『あ、わ：分かりました：』クルッ　：ダッ　!!ダッ　!!

アルリア『：ん』ヒッ。　：

『アルリア』の電話が鳴った。

アルリア『はい、もしもし?』

「倒した?」

アルリア『ああ、ついさっきな』

「『シクサ』が壊れるのは確認した?」

アルリア『いや、空中から地面に叩き落としたんで：確認はしてないが』

「確認しろお!」

アルリア『はいはい、うるさいうるさい』

「この前も確認しなかったら、倒しきれてなかったじゃんか!」

アルリア『う：』

「はーやーくー!」

アルリア『はいはい：』ガザゴン　　..ガザゴン　　：

『アルリア』は渋々探し始めた。

――

――

――

『イメリルア』は思った。

イメリルア『(最近のヒーローショーって設定もこってるなあ。：)』キッキッ

キッ

と。

イメリルア『(まあ、恐らく：今、あっちでは打ち上げでもやってるんだろ？なあ)』

キッキッ：キッキッ

『イメリルア』が歩いている風景に変わりはない。いつも歩いている風景だ。

イメリルア『(帰って、夕御飯たべよ)』キッキッ：キッキッ

しかし、1つだけ違う風景があった。

イメリルア『：え：？』

そう：1番自分が見た事ある景色だけ違うのである。

イメリルア『え：？c：g：じゃ：ない：？』

そう：『自分の家』が×××いたのだ。

いきなり、色々な事に巻き込まれた『イメリルア』。彼女を襲う、最悪の出来事に彼女は耐えられる事はできるのだろうか。

2 話・全滅フェスティバル

『アルリア』は仲間からの注意を受け、土をしっかりと調べていた。

一方、『イメリルア』は変わり果てた家に驚く。

一体、なにが？ 一体、だれが？ 一体、どうなる？ 一体が混じり合う。

ガチャ：ゴソ：

アルリア『しっかりと確認したが：ないぞ』

『土とかに混じってない？』

アルリア『ここら一帯は調べたが：なかった』

『あつそ：ちゃんと、2つあった？』

アルリア『ああ：ちゃんと、2：ん？』

『ん？どうかした？ あった？ ねえ、あった？』

アルリア『おい、ちょっと待て：『2つ』だと：？』

『アルリア』は聞き間違いかと思い、焦って聞き直した。

「そう、2つ。だって2体出てるって言ったじゃん」

アルリア『：ヤバイ！』『クゥ』 !! ヌゥ !! ヌゥ !!

「えっ!? あ! あと『アレ』送っ：」

ブツンッ!

アルリア『くそっ!』『ヌッ』 !! ヌッ !!

――

――

――

イメリルア『：なに：これ』『グザ』 : グザ :

地面：と言えないほど、原型が残っていないほど『溶けていた』

イメリルア『：アペ：? いる：?』『グザ』 : グザ :

：と、いうよりかは『溶かされていた』。『歩くべき場所』も。『帰るべき場所』も。

そして

グチャリ：!

イメルルア『：え：？』クル：

『守るべき』Ⅱ『人』Ⅱ『愛した』も

イメルルア『：あ：ああ：あ：』

：々：さ：

イメルルア『ああ：あ：あ：』

ドロオ：

ⅠⅠⅠ

ⅠⅠ

Ⅰ

アルリア『ッ：！』ダッ！！ダッ！！

『もう、手遅れだぞ？』

アルリア『：！』クル！！

『既に：何人かは殺した』

アルリア『：お前：『モグラ』か：？』

『ソレ』は、静かに訂正した。

モール・セパレイタ『正しくは『モール』：だけどねえ』

アルリア『成る程：知性を優先して『進化』させたか』

モール・セパレイタ『正解』フッフッ
：

アルリア『：地面が溶けている：？』

モール・セパレイタ『『知性』があるからこそ言うが：こっちは『目』が見えない。
故に：君がどんなファクションかも：どんな顔なのかも分からない』フッフ

ロ：!!

『ソレ』は、余裕な口調で喋った。

アルリア『：だから？』

モール・セパレイタ『故に『罪悪感』という『モノ』がない：『思う』という行為をしないで良い。故に『無差別』に殺せる：故に『本気』っていう事だ』フッ
フッ!! フッフッ!!

アルリア『『目』が見えなくとも：『聴覚』で悲鳴は聞こえる筈だぞ？』メ
ビビ：カチャ：

『アルリア』は、再び『空間』から『機械』を取り出した。

アルリア『そういう事には『罪悪感』はないのか?』カチャ .. カ
 ヤン ！！

モール・セパレイタ『故に、だ:1 番に『喉』を潰す。悲鳴もあげられない程に』
 アルリア『ふう: 贅沢なぼっちゃんだな』カチャ : カチャ !!

【ホップ】

アルリア『『装強』ヤンギ、エンギ、エン

:

カチャンッ！

【Begin】

【ハイ ホップ】

ボシユンッ！ボシユンッ！ボシユンッ！ボシユンッ！ググググッ

！

アルリア（チューンホップ）『やっぱ、欲張りなやつってのは: どこにでもいるんだな』

モール・セパレイタ『あ、友達!』ズ!!

アルリア（チューンホップ）『もう1 体!?!』クル !!

そこには、なにもなかった。

アルリア（チューンホップ）『騙しやがったな!?』*クルッ* !!

アルリア（チューンホップ）『い、いない:!?』*ガッ* !!

ドロォ!

『アルリア』の後ろの地面が『溶けた』

瞬間。

アルリア（チューンホップ）『そこかッ!』*クルッ* !!*ガッ* !!

ダアンッ!ダアンッ!ダアンッ!

『アルリア』が後ろに向けて『弾丸』を発射した

瞬間。

『地面を踏みしめる音は:よく、聞こえていた』

ヒュッ

ザシユンッ!

アルリア（チューンホップ）『ッ!?』『フシッ』

ドサドサッ！

アルリア（チューンホップ）『くそ：！』『フッロ
：

『セパレイタ』は、『土』から出てきた。

モール・セパレイタ『言ったら、『目』が見えないって：故に友達がいる事なんて
分からないのさ：君、騙されやすい性格だろ？』

アルリア（チューンホップ）『さあな：自分の性格ってのは自分では分からないモ
ノ：だぞ：？』『フッロ
：!!

モール・セパレイタ『丁度良い：未練があるまま：殺せる』フッ
：

『セパレイタ』が攻撃をしようとした瞬間。

『アルリア』が足掻きをしようとした瞬間。

ザッ
：

モール・セパレイタ『：！』『ピッ
：

アルリア『：？』

モール・セパレイタ『：まだ、生き残りがいたのか』

アルリア『：！アイツは：！』

ザッ：ザッ：

アルリア『さっきの：！』

歩いてきたのは

イメリルア『：』ギィ：ギィ：

『イメリルア』だった。

モール・セパレイタ『：歩幅の感じからすると：喉を潰すほどでもなさそうだな』

いぎ
：

アルリア『ッ：おい！逃げろッ！家に籠ってろ！』

モール・セパレイタ『無駄だ、無駄だ：気づかれたとしても：なにも出来まい』
 アッテッロ
 ：！！

『セパレイタ』は、再び『地面に潜った』。

アルリア『ッ：！』クッ
 ：！！

既に【ホップ】は解除されていた。

イメルルア『：キッ：キッ：

『イメルルア』は、うつむいたままだった。

アルリア『：！』

『アルリア』は『異変』に気がついた。『イメルルア』の『手』になにかがあるのだ。

アルリア『アレは：俺達の：？』

イメルルア『：ピタタ

ドサ：ガチャ：

『イメルルア』は『突然』：手に持っているモノを開けた。

どうやら『アタッシュケース』のようだ。

イメルルア『：>。』
 ：

『イメリルア』は『咄嗟』に、『説明書』を読み出した

イメリルア『：』ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

：

パタン：

そう、とてつもない『スピード』で。

アルリア『なに、やってんだ：！おい！逃げろ！それを置いて！』

イメリルア『：』ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。：

そして、『アルリア』が使っている『機械』と同じ『機械』を取り出した。

イメリルア『：』ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。：

カシュウウウ：カチャンッ！

アルリア『な：！？』

そして、『アルリア』が使っている『棒』と似たような『棒』を取り出した。

イメリルア『：』ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。：

そして『押し込んだ』。

カチィ！

【スピード】

.. ギョギョ

イメルルア『..』ギョギョギョギョギョギョギョ

ギョギョギョギョギョ ..

ガサア！

『突然』ヤツが出てきた

モール・セパレイタ『そこだ』ギギ !!

『瞬間』

スカッ

アルリア『..は..!?』ブワッ ..!!

モール・セパレイタ『当たらなかった..だと..?』ブワッ ..!!

ブワアアア..!

『イメルルア』は、『アルリア』の後ろに移動していたのだ。

アルリア『..嘘だろ..!?』ブワッブワッ ..!! !! !!

モール・セパレイタ『：ー』『カッ』 !!

【Begin】

ブワアアアアアアオオオオオオオッ！……！！！！！！！！！！

【クイック スピード】

イメリルア（チューンスピード）『：』『ギギギ』 ……！！

アルリア『一瞬であそこには：とか、使えているのか：？』

イメリルア（チューンスピード）『：』『セパレイタ』とか、言ったな』ロッパ：

『イメリルア』は、いつの間にか拾っていた『アタツシユケース』から、『武器』を取り出した。

イメリルア（チューンスピード）『お前には『なにも』感じさせない：『瞬間的』に『殺す』：』『ギギギ』 ……！！

モール・セパレイタ『殺す、ねえ：随分と物騒な言葉を使うじゃないか：君はbに』

ヒュッ

イメリルア（チューンスピード）『話が長い』

『いつの間にか』『イメリルア』は『セパレイタ』の真後ろにいた。

モール・セパレイタ『ッ!?』*クゥ* !!

ドパドパドパッ! ドパドパドパッ!

モール・セパレイタ『ガ..!?』*ビチャビチャッビチャッ*

!!*ガッ*

!!

アルリア『: なあ: にがあ: おこってるんだ: ?』

イメリルア（チューンスピード）『: なあ、聞かせてよ: 』

そして静かに訊いた。

『私の『妹』を殺した時: どんな気持ちだった?』

アルリア『: !』

モール・セパレイタ『妹』: ? 『妹』: つ: さあ: 覚えてないな: 』

ヒュッ

ドパドパドパッ！ビチビチャアッ！！

モール・セパレイタ『グファ：！？』ビチャビチャッビチャッ！！

イメルルア（チューンスピード）『まあ、無理もないか：お前は『目』が見えないらしいからな。無理もない無理もない』サヤ
：

ヒユッ

ドヒユッ！グシャグシリッ！ビチャッ！グシャリッ！

モール・セパレイタ『ガバアア：があ：！』

イメルルア（チューンスピード）『だからさ：怒ってないよ』サヤ
：

モール・セパレイタ『ハア：！ハア：！』ブッロ
：！！！！

イメルルア（チューンスピード）『故に』：どんな気持ちだった？』

アルリア『：！』

モール・セパレイタ『ハア：！ハア：！ハア：！』サヤサヤ
：！！！！

タツ 三三

[illegible]

!!!

『イメリルア』は、言った。

『答えてくれたら、迷わず殺せるからさ』

モール・セパレイタ『や：止めろ：！分かった：！答える：！答えるから：！：：』

イメルルア（チューンスピード）『さっきの『鳥もどき』よりかは『知能』があるが：結局は中途半端だな』

モール・セパレイタ『つ：テメエ：！』『ステータス』を『能力』に振り撒くる奴
とは違うんだよ：！』『アッアッアッ！！アッアッアッ！！

!!ト"口"口ツ

!!

イメリルア（チューンスピード）『ふうん、凄いな。で：『違う』って事はさあ』
『イメリルア』は、言った。

『死に方も『違う』様にしないと、駄目なんじゃないの？』

モール・セパレイタ『ッ!?』
!!

イメリルア（チューンスピード）『残念、時間切れ』
：

『イメリルア』は『機械』を回し、押し込んだ。

カチャンッ！カチャンッ！

【First Second】

そうして：それを更に押し込んだ。

カチィ！

【Attack】

『瞬間』『セパレイタ』は『初めて』恐怖を覚えた。見えないのに強大な恐怖を。
そして『初めて』声が出なかった。

言いたかったのに。言えなかった。

モール・セパレイタ『:!』

ヒュッ

ヒュッ

ヒュッ

ヒュッ

ヒュッ

オール.フィジカル

著者 まろかに

発行日 2021 年 8 月 26 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-
<https://syosetu.org/novel/207051/>

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。
